

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400530
法人名	特定非営利活動法人 米沢清友会
事業所名	グループホーム ピュアグローブ
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかかぬ場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	670400530		
法人名	特定非営利活動法人 米沢清友会		
事業所名	グループホーム ピュアグローブ		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市通町二丁目5番62号 (電 話) 0238-21-1967		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年9月4日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造2階建トタン葺き耐火構造 造り	
	2階建ての 階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	おむつ代他実費
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名
要介護3	名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 80 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	米沢市立病院、くまの医院、たかだ医院、山崎歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改装し、一般家庭そのままの居住環境を残したホームは、馴染みやすく落ち着いた雰囲気の中で、利用者、家族との触れ合い、地域との関係性を重んじ、「敬愛の心と絆」を大切にして、利用者本位のケアに日々取り組んでいます。
「年間を通した季節や地域の歴史文化に合わせた様々な行事、活動の取組み」、「利用者と共に植え、収穫した旬の食材の利用」、「利用者の身長や状態に合わせた食卓の高さ、椅子の型の工夫」、「馴染みの関係の継続と職員の適材適所に配慮した法人内異動」など、きめ細やかな工夫と配慮により、利用者は安心して楽しみながら暮らすことのできるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 金銭出納状況を定期的に家族に報告することについては、ホーム便りを送る際に利用料金請求書と出納帳の写しを同封し、家族が来訪した際に確認のサインをもらっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は、サービス評価の意義、目的を会議や回覧で全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果についても会議の場で報告し、話し合いをして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市職員、地区委員、民生委員、町内会代表、家族、職員(4名)をメンバーとした運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、活動内容や支援状況、利用者の状況など毎回テーマを決め話し合い、地区委員の働きかけで避難訓練時に消防団や近隣住民の協力体制が得られるようになるなど、メンバーの意見がサービス向上に具体的に活かされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に利用者の現状を伝えながら、意見や要望がないか常に問いかけている。家族から問い合わせ等があった場合には、日々のミーティングや申し送り、会議において職員全員に周知するとともに、家族にも説明し理解を得ている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の運動会や雪像づくり、町内会の草取りや清掃への参加、また、中学生や高校生、法人会員、ボランティアを受け入れたりしながら、地元の方々と交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域でその人らしい暮らしの継続を支え、敬愛の心と家族同様の絆やふれあいを通して、豊かな地域社会づくりを目指していくことを基本指針とした、地域密着型サービスとしての理念を作りあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時や研修会において理念を説明するとともに、各種法人全体、事業所、主任以上の定期会議や日々のミーティングにおいて話し合うなど、職員全員で理念の共有化が図られるように、職員の態度、言葉づかいなどにも気を付けながら、ケアの実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の運動会や雪像づくり、町内会の草取りや清掃への参加、また、中学生や高校生、法人会員、ボランティアを受け入れたりしながら、地元の方々と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、サービス評価の意義、目的を会議や回覧で全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果についても会議の場で報告し、話し合いをして具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地区委員、民生委員、町内会代表、家族、職員(4名)をメンバーとした運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、活動内容や支援状況、利用者の状況など毎回テーマを決め話し合い、地区委員の働きかけで避難訓練時に消防団や近隣住民の協力体制が得られるようになるなど、メンバーの意見がサービス向上に具体的に活かされている。		

山形県 グループホームピュアグローブ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営に際し、その基準や対処などについて市担当者と相談や情報交換を密に行い、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事案内や利用者一人ひとりの暮らしぶり、受診状況、職員の異動をお便りにして、毎月送付するとともに、家族の面会時や電話でも利用者のエピソードを交えながら伝えている。また、金銭出納状況を定期的に家族に報告することについては、ホーム便りを送る際に利用料金請求書と出納帳の写しを同封し、家族が来訪した際に確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に利用者の現状を伝えながら、意見や要望がないか常に問いかけている。家族から問い合わせ等があった場合には、日々のミーティングや申し送り、会議において職員全員に周知するとともに、家族にも説明し理解を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年の法人内異動は1名で、異動の際には職員の引き継ぎをしっかり行った上で利用者の説明し、日々の関わりの中で意識してコミュニケーションを密にするなどして、馴染みの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場外研修は、法人全体の年間計画の中で新任研修や段階に応じて年1～2回は参加できるようにしており、職場内研修は研修委員会で年間計画を立て、介護技術、救急法の実践研修を行っている。また、日々の業務の気づきの中から自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との独自の交換実習(3日間)や、置賜地域内の同業者との相互訪問、行事への参加を通じて情報交換を行い、職員の態度やケアのあり方などについて学びを深め、日頃のケアにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の幅広い生活経験や得意分野の中から、畑仕事や花づくり、大工仕事、料理、漬物の漬け方などを教えてもらい、また、米沢の歴史文化や思い出を語り合うことで学び合い、支えあう良好な関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わりを多く持ち、話し相手となったりコミュニケーションを図りながら、一人ひとりの希望や意向を把握し、全身痛を訴える方には就寝前に薬を貼布しながら寄り添い、話しを聞くなどの支援をしている。困難な方には、日々の様子や行動、表情などからの気づきを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、本人や家族と話し合い、意見や要望を聞いた上で、毎月の処遇検討会議で職員の気づきや意見を反映し、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間(3ヶ月)に応じて見直すとともに、毎月の処遇検討会議で、介護計画書に照らし合わせて経過や評価を話し合いながら、本人、家族の要望や変化に即して見直しを行っている。		

山形県 グループホームピュアグローブ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用契約時に、本人及び家族が希望するかかりつけ医 を把握し、協力医療機関がかかりつけ医の場合は、2 週間ごとに往診を受け、他のかかりつけ医の場合は、 職員が通院介助を行い、適切な医療を受けられるよう に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた方針については、職員全員 で共有し、利用者の入居時に家族、本人に説明してい る。利用者の状況に変化があった時は、本人、家族と 話し合い、かかりつけ医から助言をもらい対応するとと もに、同法人の機能的な設備が整っている他のユニッ トとも連携を図り支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	会議で、利用者を尊重した言葉づかいや対応、記録の 取り扱い等を具体的に説明して職員の意識向上を図っ ており、居間兼食堂の共有スペースなど利用者が集う 所では、利用者に関わる事やプライバシーに関する事 をむやみに話さないようにしている。また、記録は利用 者の目にふれないよう取り扱うなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、その日そ の時の本人の状態や気持ちを把握し、散歩や居室に 閉じこもりがちの方には寄り添って話を聞いてあげる など、その人に合わせて柔軟に対応している。		

山形県 グループホームピュアグローブ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に畑の野菜を収穫し、調理・盛り付け・後片付けを行い、同じテーブルで食事を楽しんでいる。土・日曜日は利用者の希望食を取り入れ、楽しみなものとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっているが、本人の希望で随時入浴でき、毎日入浴する方もいる。また、一人でゆったりとくつろいで入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を活かした畑仕事や大工仕事、調理、掃除などの役割、陶芸や手芸、折り紙などの趣味活動を行っている。また、毎日朝の会で歌を歌い、晴天時は庭でお茶のみやキャッチボールをしたり、年間行事として遠出のバスハイクや1日旅行などの楽しみ事を利用者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気をみながら、一人ひとりの希望に沿って、ホームの畑を見に行ったり、外気浴や散歩、買い物、ドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中鍵をかけることなく、利用者の行動を常に見守り、把握し、自由な暮らしを支えている。外出しそうな様子を察知した時は、さりげなく声をかけたり、一緒に出かけたり、また、外出した際には、近所の方から連絡をもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練実施計画のもと、春と秋の年2回、消防署の協力を得ながら、利用者と共に日中、夜間を想定した火災訓練を実施している。運営推進会議を通し、近隣住民や消防団の協力を得られるよう働きかけている。		

山形県 グループホームピュアグローブ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分、おやつ摂取状況を毎日チェック表に記録し、確認している。苦手な物がある利用者に対しては、量や栄養バランスに配慮しながら好みの物を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や匂いを感じ、庭に咲いている季節の花を飾り、畑で収穫した旬の食材を食事に用いたりしながら、生活感や季節感を採り入れている。また、テーブルやイスは、利用者の身長、状態に合わせて高さや型を工夫し、音や照明は利用者にとって不快にならないように調節するなど、居心地よく過ごせる生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テーブルなどの家具や仏壇が持ち込まれ、写真や小物が飾られ、ぬいぐるみ人形を持ってくる利用者もおり、本人に合わせた居室になっている。		